

国語 第1学年 ことばって、おもしろいな

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、身近な物の実際の名前と、まとめて呼ぶ名前の違いに気付き、買い手と売り手のやり取りで使い分ける。名前を言うと相手が物を選べることと、まとめる名前で仲間を表せることを確かめる。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「ことばって、おもしろいな」 教材名「ものの 名まえ」

2 単元の目標

まとめて呼ぶ名前と個々の名前を比べ、言葉が事物の内容を表す働きに気付ける。注文を受けた人が選べるように物の名前を言い直し、尋ねられたことを受けて話をつなげられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①まとめて呼ぶ名前と個々の名前を比べ、言葉が事物の内容を表す働きに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア）

〔思考・判断・表現〕①「話すこと・聞くこと」において、注文を受けた人が選べるように物の名前を言い直し、尋ねられたことを受けて応答している。（A(1)オ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

身近な物の実際の名前と、まとめて呼ぶ名前の違いに気付き、買い手と売り手のやり取りで使い分ける。名前を言うと相手が物を選べることと、まとめる名前で仲間を表せることを確かめる。学習指導要領のA(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)アを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案ではA(1)オを活動に関わる事項として扱う。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

実物や教師作成の絵を並べ、上にまとめた名前、下に個々の名前を置く。言葉が出ない児童はカードを示してから声に出す。分類の基準が違う場合は理由を聞き、扱う名前の関係を確認する。おおむね満足できる状況は、注文を受けた人が選べるように物の名前を言い直し、尋ねられたことを受けて応答しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確認する支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

第1次 第1時：○身近な物の名前を出し、名前を聞いて何が思い浮かぶか確かめる。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時：○個々の名前を仲間ごとに並べ、まとめて呼ぶ名前を考える。 評価：知①（語句や内容の整

理)

第2次 第3時：○まとめた名前と個々の名前を使った注文を比べ、相手への伝わり方を確かめる。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第4時（本時）：○買う役と売る役で、相手の問いに応じて物の名前を言い直す。 評価：思①（発言・学習記録）

第2次 第5時：○役を替えてやり取りし、伝わりにくかった言い方を直す。 評価：学習状況を見て支援する。

第3次 第6時：○まとめた名前と個々の名前の働きを振り返り、教室で使う例を探す。 評価：態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導（4／6）

（1）本時の目標

注文を受けた人が選べるように物の名前を言い直し、尋ねられたことを受けて話をつなげられる。

（2）学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「まとめた名前だけで、ほしい物が相手に伝わりますか。どんな名前を言い直すと選んでもらえますか」

【めあて】身近な物の実際の名前と、まとめて呼ぶ名前の違いに気づき、買い手と売り手のやり取りで使い分ける。

予想される児童の反応：・くだものと言っても、どれがほしいか伝わらない。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「まとめた名前だけで、ほしい物が相手に伝わりますか。どんな名前を言い直すと選んでもらえますか」

店の人と客の役を決め、まとめて呼ぶ名前だけの注文から始める。店の人は品物を選べないときに尋ね、客は個々の名前を使って注文を言い直す。役を交代し、相手の言葉を受けた応答で品物が伝わったか確かめる。

予想される児童の反応：・くだものと言っても、どれがほしいか伝わらない。

・りんごと言うと選べる。

・同じ仲間を集めるとお店の名前を考えられる。

指導上の留意点：実物や教師作成の絵を並べ、上にまとめた名前、下に個々の名前を置く。言葉が出ない児童はカードを示してから声に出す。分類の基準が違う場合は理由を聞き、扱う名前の関係を確認する。

想定する難しさ：物の色だけで仲間分けする。大きい物の名前を「まとめた名前」と考える。お店遊びの装飾に時間を使い、言葉を使う場面が少なくなる。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 注文を受けた人が選べるように物の名前を言い直し、尋ねられたことを受けて応答している。（店役と客役の応答の観察・注文の言い直し）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・同じ仲間を集めるとお店の名前を考えられる。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「まとめた名前だけで、ほしい物が相手に伝わりますか。どんな名前を言い直すと選んでもらえますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に

対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

